

令和7年度 恵庭市観光推進協議会(第1回)議事録(公開用)

1 期日 令和7年6月3日(火)10:00～ 市役所庁舎3階第2・3委員会室

2 出席者 恵庭市観光推進協議会委員8名

(高野会長、内倉委員、尾谷委員、小泉委員、小関委員、土谷委員、沼倉委員、秦委員)
事務局6名

(江川経済部長、嘉屋経済部次長、大林花と緑・観光課長、高橋主査、小井主査、伊里主事)
※欠席委員(菊地委員、瀬恒委員、武井委員、田村委員、中尾委員、葉袋委員)

3 報告

(1)恵庭市観光推進協議会委員の変更について

●資料1「令和7年度恵庭市観光推進協議会委員名簿」に基づき、事務局より説明。今回から新たな委員となる方は、サッポロビール株式会社北海道工場の瀬恒様の1名だが、本日欠席のため、後日委嘱状の交付を行う。

(2)第3期恵庭市観光振興計画策定スケジュールについて

●資料2「第3期恵庭市観光振興計画策定スケジュール」に基づき、事務局より説明。

第1回(6月): スケジュール確認と計画の基本方針協議

第2回(8月末頃): 具体的な施策を中心に協議

第3回(10月末頃): 観光消費額算定等に関する北海道文教大学地域創造研究センターへの委託研究業務の中間報告、観光事業者との意見交換会結果のフィードバック、計画案の修正協議

第4回(12月末頃): 住民意見(パブリックコメント等)を踏まえた修正案の協議

第5回(2月ころ): 第3期観光振興計画の最終案協議、完成を目指す

<特記事項>

・北海道文教大学地域創造研究センターへの委託は、観光施策の新たな指標検討も含む。業務完了は年度末。

・恵庭観光協会で(仮称)恵庭の観光を考える会を設立予定、第3回の協議会前にその会との意見交換会を実施。

・11月にはパブリックコメントと市民向け説明会を実施。

<質疑>

なし

4 議事

(1)第3期恵庭市観光振興計画の基本的な方針について

●資料3「観光入込客数推移」、資料4「第3期恵庭市観光振興計画構成(R7.6.3時点案)」、資料5「第3章計画の基本的な方針(案)」について、事務局より説明。

<質問・意見>

① 宿泊動向

【委員】資料3の外国人宿泊客数における2月が多くなっているのは、さっぽろ雪まつりに来た方が札幌市内に泊まれず、恵庭に宿泊したのか。

【委員】我々のホテルでは、2月だと海外の方が約8割、国内が2割という状況。

目的としてはいくつかあり、一つはさっぽろ雪まつりで札幌にホテルが取れないという方、後はスキー需要が主。

本格的にスキーをされる方はニセコや富良野に行かれるが、新千歳空港から入ってきているため、最初の1泊目、あるいは空港から帰る最終日に空港周辺でもう1泊するという行動が見られている。

時期としても中国の旧正月の時期となるので、日本人は旅行を控える時期ではあるが、中華系の方を中心に賑わいが見られているという状況。

【会長】令和6年度から宿泊客数の集計にマリOTTさんが入っていただいた関係で全体としては大幅な増加となっているが、小さなホテルや民泊を含めて他の宿泊施設は増えているのか。

【事務局】ビジネスホテルやシティホテルという施設は増えていないが、民泊となると数年前から徐々に増えてはいる。

【会長】民泊の宿泊者数はこの集計に入っているのか。

【事務局】入っていない。

【会長】民泊の施設数は分かるか。

【事務局】手元に資料はないが、保健所の登録状況で把握できる。

【会長】施設数や最大宿泊ベッド数なども次期計画を策定する上では大事なデータとなる。

② 恵庭溪谷の入込

【会長】施設別入込数で、近年の恵庭溪谷はコロナ禍のR2年度よりも少ないという状況であるが、要因は何か、カウントの仕方が変わったのか。

【事務局】恵庭溪谷は、ラルマナイ自然公園・桜公園と自由広場・緑のふるさと森林公園3か所の合計値となっている。

森林公園は管理人が常駐しているためほぼ実数となっているが、ラルマナイ自然公園と桜公園は無人なので、月に1回の調査数量に係数をかけて年間入込数を推計しているため、調査する日の入込人数による影響が大きく、数字の正確性が高いとは言えない。

③ プロスポーツの誘致

【委員】プロスポーツの誘致と記載があるが、新聞報道であったところ以外にも可能性があるのか。

【事務局】再整備を進めようとしているルルマップ自然公園ふれらんどにおいて、「J」リーグチームのキャンプ地というものも一つの案としてある。

④ 計画のキャッチフレーズ

【委員】第2期の時には、「花のまち 恵みの庭を育む観交まちづくり」というキャッチフレーズがあったが、第3期においても三つの方針の上に立つようなものを設定するのか。

【事務局】目指すべき方向性のようなものを示す言葉を整理できればと考えている。

⑤ 花にまつわる観光の現況

【会長】ガーデンツーリズムや花観光のコンテンツ不足など、花に関するキーワードも出ているが、緑化フェアから3年が経ち、現在はどのような状況か。

【委員】はなふるは、北海道の庭園のゲートのような存在になってきていると思う。

整備されてすぐに緑化フェアがあったので、全国の都市緑化や花、造園といった関係者へのPR効果は高いと感じている。

⑥ 観光振興の目的、ガーデンツーリズムの内容

【委員】「観光振興＝地域経済の活性化」という考え方に違和感がある。

何かの誘致だったイベントなどで集客を大きくし、経済効果を目指していくと、今までやってきた花のまち作りとかけ離れていくような気がするので、積み上げてきたものと整合性をとって計画の中に盛り込む必要があると感じている。

ガーデンツーリズムの説明で、歴史的な価値のある庭園や植物園、公園などを巡る旅行形態とあるが、恵庭のガーデンツーリズムは、そこでの暮らし方だったり、恵庭の個性的なガーデナーに会うなど、人を大事にしながら暮らしを観光にしていけるものではないかと思う。

【会長】第2期の計画においては「花のまち 恵みの庭を育む観交まちづくり」をポイントとしており、目指す効果の一つとしての経済効果はあるが、地域と来訪者の交流や人づくりというようなことが強く打ち出されており、まちづくりという発想があった。

第3期においてもその視点はやはり重要である。

【委員】はなふるが市民にとって、使いやすくデザインされたことも重要だと思う。週末には毎週イベントが開催されるようになり、市民が喜ぶものを作った結果、観光客も含めて色々な人たちが集う場所になってきていると感じている。

私は以前からオープンガーデンは個人の庭だから観光にはならないということを言い続けてきているが、そこでガーデンツーリズムというものをやろうとするならどうしたら良いか考える必要がある。

これから恵み野中央公園の改修もあるが、そこでも市民が喜ぶものを作り、結果的に観光にも繋がるようになってきたら良いと思う。

はなふるとは違う形で心の癒しの広場であったり、願いが叶う泉であったり、稼げる要素も考えながら整備すれば、はなふると中央公園、商店会、花苗の生産者など、経済活動としても結びついていくのではないだろうか。

本当にガーデニングを楽しんでいる人たちはたくさんいるが、それを観光にするのではなく、公共的な場所で作り上げていくことが恵庭のガーデンツーリズムだと思う。

⑦ マリオットホテルの状況

【会長】はなふるの中にあるホテルとして、お客様の反応などはいかがか。

【委員】特に高層階からはカーテンを開けると綺麗な庭が見え、週末には家族連れが遊んでいる温かな光景が広がっているというのは、宿泊者にも非常に好評であり、ホテルとしての強みともなっている。

課題としては、はなふるのイベントへ参加していただく際に事前予約が必要だったりという視点での情報発信や、宿泊者が市内に積極的に出ていくための仕組みの部分。

市の政策でタクシー事業を行っていただいているが、もう少し飲食店などの施設との繋がりが出てきたり、美しい街並みを見ていただくなどができると、より好循環が生まれるように感じている。

クオリティが高いコンテンツがあるが、それが上手くお客様には伝わっていない可能性がある。

分かる人には好評を得ているという状況。

⑧ 二次交通

【会長】二次交通という視点で、恵庭観光協会がはなふるでシェアサイクルをやられているが、車以外ではなふるへ来る方はどのようにして来ているのか。

【委員】お問い合わせを多くいただいている。

恵庭駅から道の駅へはどういったらいいのか、マリオットホテルに行きたいなどの電話があるが、そういった方へはタクシーやエコバスを紹介せざるを得ない。

観光協会としてはレンタサイクルをはなふるのセンターハウス発着で実施している。

また、COGICOGI という民間事業者が現状では恵庭駅発着のみでシェアサイクルを実施しているが、来月の7月になると恵み野駅にもポートが設置される予定で、そうなると恵庭駅で借りて恵み野駅で乗り捨てるということもできるようになり、サービスが拡充する。

⑨ 恵庭観光が目指すべき姿

【委員】ガーデンツーリズムに関しては、現状のコンテンツ不足は否めないが、目指していく上では花のまちづくりをどう持続させていくか、10年後も花のまちだと言い続けられるようにするにはどのような下支えが必要なのかなどを考えなければ看板だけになってしまうのではないか。

花のまちづくりの根っこがどうなっているのかというところからきちんと再認識し、どう取り組んでいくのか広範な議論が必要。

エコツーリズムというのは、この街として取り組んでいくべき命題ではあるが、資源価値の調査や評価というものを冷静に分析した上で取り組む必要がある。

資源があると言っても、その資源が人を呼び込めるものなのか、お金を落としてもらえるものなのか、その実効性をしっかりしたものにしないと継続することが難しいという問題となる。

恵庭観光協会が昨年作成したシティーセールス動画で、土谷さんがこの街の特徴を一言で言い表してくれた「暮らすように訪れるまち」というのが、この街にとって無理無駄なく、世界に対してお知らせしていくいいキャッチフレーズだと思う。

千歳や北広島など、話題が多い街に挟まれている中で、恵庭らしさとは何なのか考えた時に平易な言葉で入るのがこの街にとっての観光なのかと思う。

【委員】他の委員からも意見があったような恵庭らしさという部分をこの計画で出していくのであれば、第2期のようなキャッチフレーズも大事になってくる。

みなさんの意見を聞きながらガーデンツーリズム、エコツーリズム、スポーツツーリズムというのは、恵庭が目指しているまちづくりとは違和感があるのかなと感じた。

「暮らすように訪れるまち」というのは、恵庭のまちづくりとして目指す方向性なのかもしれない。

今、観光は、オーバーツーリズムの問題も含めて賛否ある状況であり、観光が地域でどのような役割を果たすのかというのは議論が深まってきているところである。

地域の方のまちづくりであったり、その生業とか暮らしぶりがあって、それをお裾分けするのが観光であるという見方がある。

観光学の用語で、観光都市という言葉と都市観光という言葉があり、観光都市というのは観光の目玉

のようなものがあって、観光客がそれを目指してやってくるような街のことを言うが、都市観光は、都市自体のアメニティというか、観光客をひきつける魅力ある要素があるというようなニュアンスで使われる。

恵庭の場合、周りから見ても暮らしやすいという評価があることは、これからの観光を考えた時に非常に大きなアドバンテージである。

どのように「暮らしづくりをお裾分け」するのかという部分を計画では触れていった方が良いと思う。

観光学高等研究センターでもそのような観光が大事だろうということで、ライフスタイルツーリズムラボというものを立ち上げ、従来の観光よりも一歩踏み込んだ形で、「暮らすように旅をする」ということが観光に与える影響について多方面から分析をしていこうとしている。

産業連関表を活用した地域経済循環の調査をするということは、観光が恵庭での経済の循環(域内消費)にどのように役立っているかを定量的に見て成果指標にしていくのだろうと思う。

観光産業としては宿泊料が一番単価が高いと言われているので、観光消費を上げていくなら宿泊客数を伸ばしていくということになるが、開発余地のキャパシティなどもあるので、恵庭での観光消費というのをどのように捉えていくのかというのは大事な視点となる。

花卉農業であればどの程度市内で行われており、あるいは商店街での買い物が観光客とどれぐらい結びついたりしているのかなどを観光として見ていくことが大事かなと思う。

渓谷エリアの入込数が減っているというのは衝撃を受けた。

従来型の観光というものが飽きられてきているという部分もあるのだと思うが、そこにどのような要素を入れていけばいいのかと考えた時に、見るだけではなく食べるであったり体験するというようなお金を使って楽しんでいただくような要素について、これまでも議論されていると思うが、そこに対して誘導するような方向性を行政として取る必要があるようにも思う。

アドベンチャートラベルというのは、自然や文化、アクティビティを二つ以上組み合わせた旅ということだが、何よりも大事だと思うのは、その旅の中にちゃんと物語があり、そこに専門的なガイドがつくということ。

そこで従来型の大衆観光とは次元が違う、1日で2万円とか3万円といった料金を支払っていただく中で、一般の観光客では見られないようなオープンガーデンに1日1組だけ案内するとか、そのようなツアーを組み立てることに非常に大きな可能性を感じる。

限られた資源であり、人手も厳しいということであれば、稼いでいくという視点も大事である。

盤尻地区においても森林鉄道の跡地など、一般の方は立ち入れないような場所をガイドしていくというような取り組みもできるのかなと思う。

【会長】第2期の基本理念では、「人づくりと観光振興を一体的に推進する」、「市民がまちの魅力を知り、楽しみ(愛し)、育て、情報発信していく」、「地域と来訪者の交流を一層深め、恵庭スタイルの観光を構築する」とあり、市民中心の観光計画であった。

市民が楽しむ中で来訪者にも楽しんでいただくというスタンスであったが、今日の提案は来訪者がほとんど対象のような所があった。

総合計画との関連もあるだろうが、観光は観光としての連続性も考えながら、「まちづくり」や「市民」というキーワードの位置づけをもう一度考える必要があるのではないかな。

それとツーリズムが表現として良いのかという点も再考が必要ではないかな。

スポーツツーリズムであれば、プロ野球や J リーグでお金が動くという事はあるだろうが、恵庭の人が普段楽しんでいるようなパークゴルフやゴルフ、登山や自転車で巡るようなことも取り込んでスポーツツーリズムとし、来訪者にも楽しんでもらうようにするなども考えられる。

【委員】市民のための場所、市民の暮らしというものがあり、そこに経済的な視点を入れていくという議論が今後進んでいくのが楽しみである。

花のまちづくりを土台に観光を考えるのであれば、その足元が崩れないようにしっかり支えるということが何よりも大事である。

【会長】花に関わる人づくりについて、総合計画で検討はあるのだろうか。

【事務局】総合計画では、専門部会を設けて議論を進めているので、そこで話し合いはしている。

【会長】人を育て、世代交代をきちんとしていくということが花のまちづくりの継続では大事なことであるので、しっかりと検討いただきたい。

【経済部長】様々なご意見をいただき、感謝申し上げます。

こういったご意見をいただくことが非常に重要であると思っており、計画の方向性案の提案をさせていただいた。

花のまちづくりを進めることは最重要と認識しており、暮らしやすい街や人づくりということを継続していくということも根底にはあるので、第2期との連続性・継続性も必要と思っている。

それに加えて経済効果という部分も一定程度の指標としては必要なもので、整合性をとりながら計画を作っていきたい。

本日は貴重な意見をいただき、ありがとうございました。

以上